

ズービン・メータ (指揮者)

Zubin Mehta (Conductor)



1936年、ボンベイ（現ムンバイ）生まれ。指揮者でボンベイ交響楽団の創設者でもあった父、メーリ・メータよりヴァイオリンを学ぶ。ウィーン国立音楽大学指揮科でハンス・スワロフスキーに師事。

デビュー後3年以内にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮し、モントリオール交響楽団の音楽監督（1961-1967年）、ロサンゼルス・フィルハーモニックの音楽監督（1962-1978年）、2019年で在任50周年を迎えるイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督、ニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督（1978-1991）、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団の首席指揮者（1985-2017年）を歴任し、世界の巨匠として数多くのオーケストラを指揮する。

オペラ指揮者としても目覚ましい活躍をするメータは、メトロポリタン・オペラ、ウィーン国立歌劇場、ロイヤル・オペラ・ハウス、ミラノ・スカラ座、シカゴ・リリック・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ザルツブルク音楽祭などで指揮し、1998年から2006年まではバイエルン国立歌劇場で音楽監督を務めた。2006年10月にはバレンシアにソフィア王妃芸術館を開館し、同館とフィレンツェ歌劇場との共同制作による《ニーベルングの指環》のチクルスは特筆に値する。この他、シカゴ・リリック・オペラとバイエルン国立歌劇場で《ニーベルングの指環》の全曲チクルスを行う。

カール・ベームから遺贈された「ニキシュ・リング」をはじめ、メータの受賞歴は多数にのぼる。名誉指揮者の称号はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（2001年）、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団（2004年）、ロサンゼルス・フィルハーモニック（2006年）、フィレンツェ五月音楽祭歌劇場（2006年）、ベルリン国立歌劇場管弦楽団（2014年）バイエルン国立歌劇場管弦楽団（2006年）から授与され、2016年にはナポリのサン・カルロ劇場より名誉音楽監督に任命された。2008年10月には、日本の皇室から高松宮殿下記念世界文化賞が授与された。2011年3月には、ハリウッド大通りに名前を刻まれた星型プレートを獲得。2012年7月にはドイツ連邦共和国より功労勲章（十字勲章コマンダー）を授与された。2013年9月には、インド政府より「タゴール文化調和賞」を授与された。

メータは世界各国で才能ある若手音楽家の発掘と育成を支援し続けている。弟のザリン・メータと共に、ボンベイのメーリ・メータ音楽財団の共同代表を務め、200人以上の子供たちにクラシック音楽の教育を行っている。イスラエルの若手音楽家の育成を行い、シュワラムとナザレ両市にて地元の教師やイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の団員たちと共に、アラブ系イスラエル人の若者を指導するという新しいプロジェクトも進行中である。

2018年10月20日、8ヶ月ぶりにイスラエル・フィルとのコンサートでウィーン楽友協会の指揮台に立ち大成功を収めたメータは、2020年にはミラノ・スカラ座に登場する予定。